

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	論理国語	2	A	2

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価方法	課題確認テスト、定期考査、課題テスト、小テスト、課題など	課題、課題確認テスト、定期考査、小テスト、プレゼンテーションなど	課題、授業準備、授業態度、レポート、小テスト、やり直し、プレゼンテーション、ノート提出など
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	1 広がる風景 「対話とは何か」細川英雄 「世界をつくり替えるために」小林康夫 2 考えるてがかり 「少女たちのひろしま」梯久美子 「『ふしぎ』ということ」河合隼雄 [書く]資料を整理し、テーマを吟味しよう
2学期	3 人間と知性 「学ぶことと人間の知恵」広中平祐 「ラップトップ抱えた『石器人』」長谷川真理子 4 現実の中で 「思考の肺活量」鷺田清一 「安心について」廣淵升彦 [書く]仮説を立てて検証しよう
3学期	5 ものの見方 「弱肉強食は自然の摂理か」山田俊弘 「複数の『わたし』」松村圭一郎 6 働くよろこび 「はじめに『言葉』がある」堀畑裕之 「楽に働くこと、楽しく働くこと」小関智宏

■何で学ぶか(教材)

教科書:「新編論理国語」東京書籍
副教材:「新編論理国語 学習課題ノート」東京書籍
「常用漢字ダブルクリア」尚文出版

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

- ①興味を持ち②疑問を持ち③考える 授業にする。
- ①学習の基礎となる語彙力を増やし、語感を豊かにするために、語句の意味調べをする。
- ②文章を読み、その内容などについて、批評したり討論したりする活動を取り入れる。
- ③設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する活動を取り入れる。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	国語表現	2	A	2

■目標

実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができるようにするとともに、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。さらに、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	学校生活や身近な社会生活における様々な関わりを含みながらも、社会人として活躍していく高校生が、他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能について理解し、それを適切に使うことができるようにする。	状況や場面に応じた他者との関わりの中で、必要な事柄を正確に伝え、相手の意向を的確に捉えて解釈したり、効果的に表現したりすることができるようにする。	言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めることを目指し、現代社会に関わる話題や問題に幅広く関心をもち、生涯にわたる読書習慣の基礎を築き、社会人として、考えやものの見方を豊かにする。
評価方法	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーション、授業準備、授業態度など
割合	30%	40%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	1 言葉と出会う レッスン1 言葉と表記 レッスン2 整った文を書く レッスン3 相手に応じた言葉遣い レッスン4 わかりやすい文を書く レッスン5 文のつなぎ方 表現への扉① 身近な言葉を見つめよう
2学期	2 伝える、伝え合う レッスン1 自己紹介ゲーム レッスン2 言葉のストレッチ体操 レッスン3 絵や写真を見て書く レッスン4 マイニュース記事を書こう 表現への扉② 伝え合いのヒント
3学期	3 小論文・レポート入門 レッスン1 小論文とは何か レッスン2 反論を想定して書く レッスン3 文章を読み取って書く レッスン4 統計資料を読み取って書く レッスン5 発想を広げて書く レッスン6 レポートを書く レッスン7 論文を書くために 表現への扉③ 小論文を書くために

■何で学ぶか(教材)

教科書『国語表現』(大修館国表701)
 準拠ノート『基礎練習ノート 国語表現』

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

教科書と準拠ノートで基本的な要素を学びつつ、小論文を書いたりプレゼンテーションをしたりする機会を多く設定し、生徒間で相互評価を行う。
 また、外部のコンクールなどにも積極的に作品を応募する。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
公民	公共	2	A	2

■目標

現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的に活動するために判断する材料となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。また、現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な立場をふまえるべき基本的原理を認識して、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。 選択・判断の手がかりとして、個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。	社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察しながら判断し、表現できる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、日本ならびに各国の主権を尊重し、平和と繁栄を図ることの自覚を深める。
評価方法	定期考査(知識分野) 準拠ノート整理(知識分野)	定期考査(思考・判断分野) 準拠ノート整理(思考・判断分野) 小論文(600字程度)	課題の提出状況 小論文(600字程度) 授業の出席状況
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	第1部 私たちが作る社会 第3章 私たちの社会の基本原則 第1節 社会の基本原則と憲法の考え方 重要用語確認問題 演習問題 第2部 社会の仕組みと諸課題 第1章 私たちと法 第1節 法の意義と司法参加
2学期	第2章 私たちと政治 第1節 民主社会と政治参加 第2節 国際政治の動向と平和の追求 重要用語確認問題 演習問題 第3章 私たちと経済 第1節 市場経済の仕組み
3学期	第2節 豊かな社会の実現 第3節 国際経済の動向と格差の是正 重要用語確認問題 演習問題 総合問題

■何で学ぶか(教材)

教科書『高等学校 公共』(帝国書院公共707)
準拠ノート『高等学校公共ノート』
DVD『映像の世紀』(NHKエンタープライズ)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

単に説明を聞き、考え方を暗記することで機械的に問題を解くのではなく、新聞などのデータを分析・整理して問題の本質を理解し、適切に判断する力や、周囲と協働できる力、更には社会参画を視野に入れた公民として必要なスキルを身に付けること。
またタブレットを利用して、教材にはない資料や記事等を紹介して考察をさせたりすることで、理解を深める。
この字型の一斉授業ならびに3~4人のグループによる考察を深める作業を行う。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
数 学	数学Ⅱ	2	A	2

■目標

- 1 図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数の考え方を理解し、基礎的な知識を習得する。
- 2 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用するようになる。
- 3 数学的な見方や考え方の良さを知る。
- 4 進学や就職に対応できる基礎的な学力を身に付ける。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	<ul style="list-style-type: none"> ●学習内容を理解する。 ①教科書の各単元の基本例題、練習問題を解き、その解法を理解する。 ②公式を理解する ③公式や技法を習得する 	<ul style="list-style-type: none"> ●応用例題や発展問題などを考察したり、解法を理解したりする。 ①応用問題と向き合い、根気強く解法を理解する。 ②習得した技法や解法を応用し問題解決に取り組む ③答案として洗練された表現を表出したり、独自の別解を編み出したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●課題を解き、提出期限を守る。 ●授業中、授業プリントにしっかり取り組む。 ●授業時の発問に対し自分の意見を述べ、指示された活動を積極的にを行う。 ●集中力して授業に取り組む。
評価方法	定期考査、小テスト、課題、授業プリント、自己評価(振り返りシート)	定期考査、小テスト、課題、授業プリント、自己評価(振り返りシート)	課題、授業に取り組む姿勢、授業プリント、自己評価(振り返りシート)
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	(数学Ⅱ) 2章 図形と方程式 1節 点と直線 2節 円 3節 軌跡と領域
2学期	3章 三角関数 1節 三角関数 2節 加法定理
3学期	4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 2節 対数関数

■何で学ぶか(教材)

教材
教科書 数学Ⅱ
補助教材 Study-Up ノート数学Ⅱ
授業プリント 課題プリント スタディサプリ

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

授業の方法・学び方
1 始業前に学習準備をする
2 (状況に応じて)小テストまたはスタディサプリを解く
3 授業活動を行う
ケース1 ①教師による例題等の解説
②板書書写と内容理解
③練習問題を解く
④公式や解法の理解が深化する。
ケース2 ①発展問題を各グループに提示する
②グループ内で切磋琢磨し、解法を導く。
※必要に応じて教師の助言や他グループの考察を取り入れる。
③解法を発表し、クラスで吟味する。
④学んだ内容を確認しまとめる。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
理科	科学と人間生活	2	A	2

■目標

自然に対する理解や科学技術の発展がこれまで私たちの日常生活や社会にいかに関与を与え、どのような役割を果たしてきたかについて、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学に対する興味・関心を高め、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	自然の事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けさせる。	人間生活と関連のある自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈するなどの活動を通して、科学的に探究する力を育てる。	生徒の学習意欲を喚起し、生徒が自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を育てる。
評価方法	定期考査、小テスト、課題	定期考査、小テスト、実験レポート	課題、授業準備、レポート、やり直しプレゼンテーション、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	1編 生命の科学 1章 微生物とその利用 2章 ヒトの生命現象 2編 物質の科学 1章 材料とその再利用
2学期	2章 衣料と食品 3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用 2章 熱の性質とその利用
3学期	4編 宇宙や地球の科学 1章 太陽と地球 2章 自然景観と自然災害

■何で学ぶか(教材)

・教科書:科学と人間生活(東京書籍)
・補助教材:ニューサポート科学と人間生活(東京書籍)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

実験や教科書の写真、QRコードによる動画視聴などを用いて、興味を喚起できるようにする。

生徒の対話する場面を多く設け、生徒同士で説明、理解させる場面を作り、主体的に学習できるような場面を設定する。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
英語	English Communication II	2	A	3

■目標

- 短めの対話やアナウンス、事物に関する紹介を聞いて、詳細な情報を聞き取ることができる。(聞くこと)
- 事物に関する紹介や対話、簡単な図や掲示物、説明文や物語等を読み、詳細な情報を理解することができる。(読むこと)
- 読んだり聞いたりした内容について、自分の意見を言うことができる。(話すこと)
- 日常生活での話題について、ある程度まとまりのある文章を書くことができる。(書くこと)

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	各 Lesson の本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語や Ineteraction 等の言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり、書いたりする技能を身に付ける。	質問の意図を理解し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり、書いたりできる。	Lesson の内容を理解し、ターゲットとなる文法事項を使って質問に答えたり、自分の意見を表現したりしようとする。 また、基礎学力をつけるために課題に熱心に取り組むことができる。
評価方法	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト	課題、授業準備、やり直し、小テスト 授業態度等
割合	30%	30%	40%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	Lesson 1 Dances Around the World Lesson 2 Katsura Sunshine — Making the World Laugh
2学期	Lesson 3 Living with Nature—Takita Aska' s Journey Lesson 4 Sesame Street
3学期	Lesson 5 From Landmines to Herbs

■何で学ぶか(教材)

MY WAY English Communication II (三省堂)
マイウェイ総合英語(三省堂)
Data Base 1700 [3rd Edition](桐原書店)
Tetra 2(啓隆社)
Listening Essentials 1.5(啓隆社)
Zoom English Grammar 27 Lessons(第一学習社)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

2年次・3年次で同じ教科書を使い、学んでいく。英語コミュニケーションIにおいて学んだ内容を元に、さらに本文の内容を把握できるように、ただ単に授業を受けるだけではなく、自主的に予習プリントの問題を解く。知識を深めていくために、単語等の小テストを実施する。そのための対策を自分で工夫し実践する。
また、授業後にはファイルを提出させ、平常点に加味することとする。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
保健体育	体育	2	全	3

■目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、お互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
評価方法	技術・技能テスト	グループノートの活用 段階別練習方法の工夫と実践	グループ活動の実践 用具準備・片付け活動 審判等の係活動実践
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	1 体づくり運動 2 選択Ⅰ【器械運動・ダンス】 (器 械:マット・跳び箱) (ダンス:現代的なリズムダンス) 3 体育理論
2学期	1 選択Ⅱ・Ⅲ【球技・武道】 (球技:ソフトボール・サッカー・バスケット・バレー) (武道:柔道) 2 陸上競技(長距離走) 3 体育理論
3学期	1 選択Ⅳ【球技・武道】 (球技:サッカー・バスケット・バレー・バドミントン・卓球) (武道:柔道) 2 体育理論

■何で学ぶか(教材)

現代高等保健体育 現代高等保健体育ノート

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

<p><授業の方法></p> <p>各単元の特性と魅力を理解させ、基本的技能の向上の方法について、模範演技などを行いながら段階別練習法などを提示する。また、特性に応じたグループ編成を行い、生徒同士が主体的に活動できる場を提供する。</p> <p><学び方></p> <p>各単元における特性や技能上達及び安全管理の方法について説明を聞き、基本的な技能の向上を目指すだけでなく、他者を認め、個の特性を生かした表現方法を工夫しながら、積極的に活動に参加する態度を身に付けること。</p>

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
保健体育	保健	2	全	1

■目標

保健の見方や考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。
評価方法	定期考査 保健体育ノート活用	グループワーク活動 保健体育ノート活用	授業準備 グループワーク活動
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	<生涯を通じる健康> 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康
2学期	8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活 <健康を支える環境づくり> 11 大気汚染と健康 12 水質汚濁、土壌汚染と健康 13 環境と健康にかかわる対策 14 ごみ処理と上下水道の整備
3学期	15 食品の安全性 16 食品衛生にかかわる活動 17 保健サービスとその活用 18 医療サービスとその活用 19 医薬品の制度とその活用 20 さまざまな保健活動や社会的対策 21 健康に関する環境づくりと社会参加

■何で学ぶか(教材)

現代高等保健体育 現代高等保健体育ノート

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

<p><授業の方法></p> <p>各単元において、教科書・副教材に対応したパワーポイント作成やタブレットによる調べ学習など視覚的分野から興味関心を高める授業を展開するとともに、言語能力を育成するためグループ活動による課題解決活動を取り入れ、生徒が協力して課題解決に向けて思考判断することができるようにする。</p> <p><学び方></p> <p>各単元における知識を理解するとともに、グループワークの中でお互いに協力し合って意見を出し合い、課題解決に取り組む。知識については、教科書を中心とした各単元のキーワードを副教材を利用しながら学ぶ。</p>
--

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
芸術	音楽Ⅱ	2	A(選択必修)	2

■目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを旨とする。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	音楽の基礎的、基本的な知識を習得し、曲想と音楽の構成や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴く力を養う。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
評価方法	確認テスト、小テスト、実技テスト	確認テスト、小テスト、提出課題 実技テスト	確認テスト、小テスト、提出課題 自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	楽典基礎・基本、応用 歌唱(校歌、発声の基礎基本、イタリア歌曲、他) 器楽(ボディーパーカッション) 鑑賞(西洋音楽を中心に)
2学期	舞台発表 器楽(ギター) 歌唱(合唱曲、日本歌曲、ドイツ歌曲、他) 鑑賞(伝統音楽を中心に)
3学期	器楽(和楽器“三線”) 歌唱(合唱曲、独唱曲、二重唱、他) 鑑賞(舞台音楽を中心に)

■何で学ぶか(教材)

・教科書「MOUSA②」(教育芸術社)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

主体的な学習の姿勢が基本である。1年次に学習したことを生かしながら、さらに技能や表現力を高める。学習した楽曲を単に演奏するのではなく、良い音を追求する、創意工夫を重ね、模範演奏を参考にしたり、他者の演奏からヒントを得たりして、自身の演奏の質を高めること。楽典の基礎・基本を習得した上で、応用的な内容を理解し、楽譜の中から作者の意図を読み取り、自身の演奏や記述に生かすこと。

(補足)

毎時行う自己評価によって成長度合いや主体性、理解度を確認する。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
芸術	美術Ⅱ	2	A(選択必修)	2

■目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 個性豊かで創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えることができる。 主題を生成し、個性豊かに発想したり構想を練ったりすることができる。 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとすることができる。
評価方法	作品 ワークシート	作品 自己評価 鑑賞シート	制作活動の記録 作品 課題 作品発表
割合	30%	40%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	鑑賞「人を、社会を変えていく／オラファー・エリアソン」 絵画「人物を描く(自画像)」 鑑賞「作家の生涯と作品 亀倉雄策」 デザイン「トータルデザインを考えるー学校行事ポスター制作」
2学期	映像メディア表現「風景を撮影する」 映像メディア表現「ミュージックビデオをつくる」 鑑賞「抽象への誘い」 デザイン「版表現の可能性(ステンシル)」 ↓
3学期	デザイン「版表現の可能性(ステンシル)」 鑑賞 「比べて鑑賞する 椅子のデザイン」 デザイン「ポートフォリオの作成」

■何で学ぶか(教材)

教科書「美術2」(光村図書)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

作品制作では、構想を練るためのアイデアスケッチなどを行い、しっかり構想を練って表現の工夫をすること。また、作品は必ず完成させて提出すること。

作品鑑賞では、作品から感じとったことを記述したり、発表したりするなどし、他者の意見や感想を比較しながら、ものの見方をより深めていく。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
家庭	フードデザイン	2	A	2

■目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を見出し思考を深め、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	食生活に関する諸問題に関心を持ち自ら学び、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。
評価方法	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト	課題、授業準備、レポート、やり直し プレゼンテーション、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	第1章 健康と食生活 ①食事の意義と役割 ②食を取り巻く現状 第2章 各栄養素のはたらき ①栄養素と消化・吸収 ②各栄養素のはたらき
2学期	第2章 各栄養素のはたらき ③食品とその特徴 ④何をどれだけ食べる? 第3章 食品の選択と取り扱い ①食品選択のこつ ②食品の衛生と安全
3学期	第4章 調理してみよう ①なぜ調理するのか ②調理操作と調理器具 第5章 各国料理とコーディネート ※調理実習は年間通して随時

■何で学ぶか(教材)

フードデザイン cooking&arrangement (教育図書) ビジュアルクッキング (教育図書)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

知識をしっかりと身に付け、実生活に活かしていける技能を身に付ける。 実生活との関連をしっかりと理解させ、自分のこととして考え、行動できるようにする。 実験・実習を中心とした指導を行う。 実践的・体験的な学習活動を充実するとともに、生活の中から問題を見だしその課題を解決する過程を重視する。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
商業	簿記	2	A	3

■目標

企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得させ、簿記の基本的な仕組みについて、理解させるとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育てる。
自ら学び、理解し、関連する技術を身に付ける。
1月全商簿記検定試験3級合格を目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	資産・負債・純資産・収益・費用の分類・簿記の基本的な流れを学習し習得する。 電卓の基本的な操作方法を身に付ける。	簿記の基本的な流れを理解し、問題集の演習問題に自身の力で取り組めるようになる。	課題に最後まで取り組み、提出期日を守り提出することができる。提出後、不備を指摘された場合はきちんと訂正し再提出する。 スタディサプリを活用することができる。
評価方法	課題確認テスト、定期考査、検定試験 課題テスト、小テスト、課題	課題確認テスト、定期考査、検定試験 課題テスト、小テスト、課題	課題、授業準備、レポート、やり直し 自己評価
割合	45%	30%	25%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	電卓の基本操作方法(6月ビジュ初計算実務検定試験) 簿記の意味について 資産・負債・純資産・収益・費用の分類 簿記の基本的な流れ
2学期	取引の記帳 主要簿・補助簿 決算(その1) 伝票の起票
3学期	1月全商簿記実務検定試験3級受験 全商簿記実務検定試験2級の範囲 決算その2

■何で学ぶか(教材)

教科書:新簿記(実教出版)
補助教材
・標準検定簿記3級問題集(東京法令出版)
・標準検定簿記2級問題集(東京法令出版)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

専門用語を理解し、簿記のしくみを習得する。
授業をしっかり聴き、問題に取り組む。
理解が難しい問題は繰り返し取り組む。
電卓の基本的な操作方法を身に付けるため、練習する。

スタディサプリ(資格対策講座)に全商簿記の講座があります。参考にしてください。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
商業	ビジネス基礎	2	A	3

■目標

自ら学び、理解し、関連する技術を身に付け、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	<ul style="list-style-type: none"> ・商業の各分野について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・ビジネス計算実務検定試験3級取得 ・ビジネス計算実務検定試験普通計算1級か2級取得 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・ビジネス計算実務検定試験3級取得 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業人として必要な豊かな人間性を育み、求められる倫理観を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会に貢献する意識などを育む。ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	課題確認テスト、定期考査、検定試験 課題テスト、小テスト、課題	課題確認テスト、定期考査、検定試験 課題テスト、小テスト	課題、授業準備、レポート、やり直し プレゼンテーション、自己評価
割合	45%	30%	25%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	教科書 第6章 売買に関する計算 電卓の使い方 キー操作 6月全商ビジネス計算実務検定試験3級受験 教科書第1章 商業の学習ガイダンス 第2章 経済と流通の基礎・第3章 ビジネスの担い手 検定試験後2級の内容を教科書内容と並行して学習
2学期	教科書 第4章 企業活動の基礎 第5章 ビジネスと売買取引 ビジネス計算実務検定試験2級の内容を教科書内容と並行して学習 11月検定試験技能の取得状況に応じて受験
3学期	教科書 第5章 ビジネスと売買取引 第7章 ビジネスとコミュニケーション ビジネス計算実務検定試験1級の内容を教科書内容と並行して学習

■何で学ぶか(教材)

教科書:ビジネス基礎新訂版(実教出版)
 補助教材
 ・ビジネス基礎新訂版問題集(実教出版)
 ・全商ビジネス計算実務検定演習2・3級(実教出版)
 ・全商ビジネス計算実務検定試験模擬テスト2級
 ・全商ビジネス計算実務検定試験模擬テスト3級

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

授業を聞き、問題集に取り組むことにより自分の理解度を確認する。ただの暗記ではなく実際の事象に絡めて考える。
 全商ビジネス計算実務検定試験に取り組むことで、電卓の技能を身に付け、資格を取得する。